

日本物理学会 2022 年秋季大会
領域 7 インフォーマルミーティング議事録
(2022/10/03 修正第二版)

日時：2022 年 9 月 14 日 19:00 – 21:00
場所：オンライン開催
主催：領域 7 (運営委員)

+++++

議題目次

1. 学生優秀発表賞 表彰式
2. 現領域代表、副代表、運営委員の紹介
3. 次期領域代表、副代表の選出・承認【審議事項】
4. 次期領域運営委員の紹介
5. 次々期領域運営委員の選出・承認【審議事項】
6. メーリングリスト運用について
7. 概要集提出率について
8. 各種賞について (日本物理学会論文賞・米沢富美子記念賞)
9. 関連会議・シンポジウムの紹介
10. 次回大会について
11. 学生優秀発表賞の実施方法について【審議事項】
12. 今後の領域 7 の運営について【審議事項】

+++++

1. 学生優秀発表賞 表彰式

領域代表・副代表・運営委員・次期運営委員からなる 8 名に審査を依頼し、以下の観点で審査を行った。

- 研究内容(研究の意義、新規性、妥当性)
- プレゼンテーション(ポスターの構成、伝わりやすさ、質疑応答)

結果をもとに領域代表・副代表・運営委員で協議を行い、8 名の候補者から以下の 2 名を受賞者として選出し、表彰式を行った。

☆ PSA-2 高橋賢信さん(埼玉大院)

「有機伝導体 κ -(BETS)₂CF₃SO₃ の基礎物性」

☆ PSA-12 宮田稜さん(東大院)

「原子間力顕微鏡で読み解く層状結晶性有機半導体の力学物性と分子配向秩序との相関」

受賞記念講演として上の二名から受賞の挨拶および研究内容に関する説明があった。

2. 現領域代表、副代表、運営委員の紹介

領域代表:

長谷川 達生 (東京大) 【任期: 2022 年 4 月 ~ 2023 年 3 月】

領域副代表:

佐々木 孝彦 (東北大) 【任期: 2022 年 4 月 ~ 2023 年 3 月】

領域運営委員:

橋本 顕一郎 (東京大) 【任期: 2021 年 10 月 ~ 2022 年 9 月】

明石 遼介 (量研機構) 【任期: 2021 年 10 月 ~ 2022 年 9 月】

榮永 茉利 (大阪大) 【任期: 2022 年 4 月 ~ 2023 年 3 月】

須田 理行 (京都大) 【任期: 2022 年 4 月 ~ 2023 年 3 月】

3. 次期領域代表、副代表の選出・承認 **【審議事項】**

【任期: 2023/04-2024/03】

領域代表:

佐々木孝彦 (東北大)

副代表:

久保園芳博 (岡山大)

承認された。

4. 次期領域運営委員の紹介

領域運営委員:

須田 理行 (京都大) 【任期: 2022 年 4 月 ~ 2023 年 3 月】

榮永 茉利 (大阪大) 【任期: 2022 年 4 月 ~ 2023 年 3 月】

福岡 脩平 (北海道大) 【任期: 2022 年 10 月 ~ 2023 年 9 月】

松浦 弘泰 (東京大) 【任期: 2022 年 10 月 ~ 2023 年 9 月】

5. 次々期領域運営委員の選出・承認 **【審議事項】**

現運営委員により、次々期運営委員として以下の方々を選出し、承認された。

次々期領域運営委員:

佐藤 拓朗 (分子研) 【任期 2023 年 04 月 ~ 2024 年 3 月】

丸山 実那 (筑波大) 【任期 2023 年 04 月 ~ 2024 年 3 月】

6. メーリングリスト運用に関して

以下の内容を周知した。

アドレス数上限: 1000

登録アドレス数: 905 (2022/09/14 現在)

登録者へのお願い事項:

- 卒業などで使われなくなったアドレスについて削除依頼を運営委員まで連絡
- 送信エラー対策として受信設定やメールボックス容量のチェック

連絡事項:

研究室 ML によって登録されているアドレスからは bunyu4@r7.div.jps.or.jp, committee_r7@jps.or.jp への投稿はできません。

(投稿の必要がある場合には、ML に直接登録してあるメールアドレスをお持ちの方にお問い合わせするか、運営委員のメールアドレスに直接、ご連絡をお願いします)

7. 概要集提出率について

2022 年秋季大会における領域 7 の概要集提出率は $74/80=92.5\%$ (全領域中 12 位)であったことを報告した。

未提出内訳: シンポジウム講演 3 一般講演 2 ポスター講演 1

シンポジウムにおける「はじめに」「終わりに」についても予稿提出が必要であることの周知が必要とのコメントがあった。

8. 各種賞について

日本物理学会第 28 回論文賞

領域 7 からの推薦を希望する者は所定の提出物を長谷川先生、佐々木先生まで送付するよう周知した。(領域内締切 2022/10/11 必着)

米沢富美子記念賞

領域 7 からの推薦を希望する者は所定の提出物を長谷川先生、佐々木先生まで送付するよう周知した。(領域内締切 2022/10/23 必着)

領域 7 における告知ページが未更新だが、近く更新される旨 web ページ担当より説明があった(2022/09/21 現在更新済)。

9. 関連会議・シンポジウム

以下の研究会について紹介があった。

「研究会 一相関電子の軌道自由度から生まれる多様性と普遍性」

- 2022/10/28-29 東北大学
- 事前登録必須 10/17 登録締め切り
申し込み順 規定人数に達し次第申し込み打ち切りの可能性あり
- 亡くなられた石原純夫先生の業績に関連

webpage

<http://www.cmpt.phys.tohoku.ac.jp/~nasu/ws/2022-workshop/>

10. 次回大会について

以下の事項を確認した。

- 次回の 2023 年春季大会はオンラインで 2023/3/22-25 に行われる
- 今後は 3 月に春季大会(オンライン)、9 月に年次大会(現地)が行われる。
- 次次回大会は 2023 年年次大会(オンサイト、東北大学青葉山・川内キャンパス)。ただし現状キャンパスの使い方はまだ調整中。またシンポジウム開催を 2022 年秋季大会に倣い別日にするかも未確定。

11. 学生優秀発表賞の実施方法について 【審議事項】

今回はオンサイトのポスターセッションにて学生優秀発表賞審査を実施した旨運営委員から報告があった。その後、次回以降の賞実施方式について意見を募る時間を設けたところ、活発な議論が起こった。オンラインポスターで優秀発表賞を行う効果に関する疑義から、さらに派生してオンライン学会でポスターセッションを行う必要はないのではとの意見も出た。長時間の議論の後、以下の事項について語り、承認された。

- 次回は口頭発表で学生優秀者を決める。実施方法の決定は運営委員に一任する
- オンライン大会でポスターセッションを今後も実施するか失くすかどうかについては議論を継続する
- 上記事項については広く意見を募る

意見の詳細

i. 今回の審査方式について

- ポスターセッションだと学生とインタラクティブに質疑を行える点がとても良かった(同意見多数)
- 参加研究室が少ないのもっと広く告知してほしい

ii. 以降の審査方式について

- オンラインポスターセッションで審査を行うなら、インタラクティブにするため何か工夫をしたほうがよい
- オンライン審査だと参加側も相対的にモチベーションが下がるのではないか
- オンラインの場合、口頭発表での審査を考えても良いのではないか(同意見多数)

ii-a. これまでのオンライン審査方式をとっていた経緯

- 口頭セッションで審査しようとするが大変ということでポスターになった
- 発表者が用意した zoom 部屋を用いると不公平になるかもという懸念があったので、学会が用意した仕組みを使うことにした

ii-b. ありえる審査方式について

- 他の学会では例えばショートプレゼンを先にやってもらって、その後ブレイクアウトルームに分かれる方法を取っている
- 学生賞をポスターでやらなければいけないルールはあるか? → 無い
- かつてに方式をいじると(例: 他の領域から参加しづらいなど)上から批判がかかるので領域代表などを通じて調整しながら行う必要がある。
- より効果的な方式を追求して欲しい。例えば表彰の時期の縛りをなくすなどの可能性も
- 領域 8(口頭を対象)の場合、かなり早い段階で発表内容を事前に提出してもらっている
- 領域 8 にくらべ 7 はトピックが狭いので事前提出なしでもよいのではないか

ii-c. 学生賞制定の経緯

- 賞の authorize は領域 7 が主導した
- もともと優秀発表賞を設立した動機として、分子性固体の人がほかの領域に散ってしまっているのを、集めて意見交換をする場がほしかったことがある。

- 制度を変えるデッドラインは?

— 次回の大会のやり方を学会誌に告知する必要があるので、そこ。

— ポスターをやる・やらないは crucial なので、学会誌告知に縛られた上、本部と連絡が必要

— 学生優秀発表賞のやりかたは内部で比較的フレキシブルにいじれる

12. 今後の領域7の運営について 【審議事項】

領域活性化のために行いたい方策や企画について意見を募った。議論の後、以下の事項について諮り、承認された。

- 次回大会は運営委員が主導して合同チュートリアル/企画講演を計画していく

意見の詳細

- シンポジウムだけではなく、チュートリアル講演などを積極的に取り入れるようにする
キーワードに追加の余地を検討されたい
- 他の領域と関連が深いトピックがあり(例: 領域 5 光誘起相転移)、そういう関連の深いところと合同セッションを組めるようにしたい
- 関連の深い領域に「材料として分子固体・有機導体をつかっている発表が多かったら合同セッションを積極的に検討していただきたい」と打診してはどうか
- やりやすそうな行事は合同でチュートリアル講演/企画講演を企画することではないか。
一般講演のカテゴリをいじるのは比較的難しそう